

ロースバーク
日本人
収容所
知事局
十二月廿六日
土曜発行
オ一〇七号

法皇の對人類教書目

眞の調和協定を懇求
倫敦降詔祭宵祭 國際通信は羅馬
法皇の教書を傳へたが其内容は人類
に神之恩恵の豊かにならんことを祝禱
し眞の平和克復を期大められたる教書
中「マルクス系社会主義我を極度に否
定し併せて『超國主義主義』も排斥して
一、全人類の調和協定を懇求して新し
き平和ある世界を齎らざん事を祈り
二、斯くして始める戦後永久的平和復活の
基礎を築き人類各自の幸福を産
むべきを教へ
三、在人類調和の協定はこれを形成する
要素として人道的倫理と宗教的教
育と相俟つ所の各自の道徳を標準と
して新令を國際的機構とせよと
説き
四、更にその各自の道徳の質を詳解して
信仰に基く正義と自由とを徹りた
る國民と隣接せる國民と協定を意

味すとして
現代より將來に於て共產的思想の上に立脚
せる政治經濟の流行せんとする危険を警告
し、世界の眞理を思索する先聖徒と
個人主義より脱却する精神に基くべき
青年の壯年の大家との自覚に待て結語
した。

米軍ダカールへ入港

外交戦夫天功無血上陸
倫敦廿五日附A.P.通信員 ジョセフ
ルトン特報に據れば、米軍は待望の目的
を果してダカール港に軍隊を上陸した。
豫て北阿政略軍司令長官アイゼンハ
ワー將軍が同港東南市外モラック飛行
場に兵舎を設備中であつて、米國軍隊
は海軍司令官ウヰリアム・グラスフォード提
督が統率下に陸海空三方より入港した
此無血入港に殊勳を樹てしダカール提督
はアルゼリアへ出張した。

加害者は即時就縛

倫敦廿五日U.P.電 アルゼリア無電
放送はインフラノ・ダカール提督がアルゼリ
アに出張の途次、廿四日午後三時一壯漢突
如三弾を浴びせて重傷を蒙つた。
加害者は二十才餘りの伊佛混血兒であ
り直に就縛した。ダカールは終に死な
か三大隊司令機関の新住

オ三大隊司令部は最近新任されたホサ
マール大尉が職務をより副官チャリス
エック・タート小尉は、十一、十二の両中隊を擔
當し、エドワード・セ・ワフソ小尉は九、十の中隊
を要持つ事となり今朝知事局へ挨拶の
ため訪された。

オ二大隊行軍

待望の糯米來る。
豫て注文の中正月用糯米、醬油、其他着
荷したるを来る月曜日各中隊に配付致
す。

佛教日曜礼拝

午前九時
オ五中隊社教室

曹洞宗禪堂會

午前九時
吉住浩生殿師
般若心經講義

浄土宗礼拝

午前九時
西永義母殿師
聖典講義

○寢室生流素謡納會
十二月廿七日(日曜)午後一時
オ二大隊娛樂堂
一鶴亀、二サ服、三胡蝶、四復寛
五祝言
(同好者、素願歓迎)

ゼネバより祝電接受

当所日本人一同に對し、ゼネバ奉仕会より
降誕祭慶祝電報を差達せらる
電文 紐育廿三日附ロースバークイン
ントキャン、ラング、司令官官憲
軍務所屬牧師監督の認可を得たるを以て
貴下がキャン、ラングの牧師又はキャン、ラング指導
者に在りませし、御指導せられたる事と清
スイス、ゼネバにある方國基督教聯盟
本部の戦時捕虜に對する牧師奉仕会
は戦時捕虜並にインテリ、ニス諸氏に
クリスマスの祝辞を呈し、神の恩恵と
平和とが諸君の上に豊かに降らんことを祈る。

○病院便り

栗田常次郎(愛媛) Co.2
三上信雄 (東京) Co.3
榎藤市郎次(廣島) Co.2
早島大徹(北海道) Co.3
尾鼻杯之助(和歌山) 進藤卓爾(廣島)
佐々木代次郎(山手)

○土曜午後ラフレ

夕べ提督暗殺の報と共に北阿は一時
混乱状態を見せたが、北阿は臨時
其後を繼いだ声明により漸く沈静

